

敬愛大学 国際学部

# 2011年度 研究活動報告

## 掲載者一覧

(学部学科別にアルファベット音順)

### 国際学部国際学科

有馬 容子 Yoko ARIMA	131
家近 亮子 Ryoko IECHIKA	131
ジェーン・イケシマ Jayne IKESHIMA	133
覚正 豊和 Toyokazu KAKUSHO	134
櫛田 久代 Hisayo KUSHIDA	135
増井 由紀美 Yukimi MASUI	135
水口 章 Akira MIZUGUCHI	136
村川 庸子 Yoko MURAKAWA	137
中村 圭三 Keizo NAKAMURA	138
大月 隆成 Takashige OTSUKI	139
織井 啓介 Keisuke ORII	140
三幣 利夫 Toshio SANPEI	140
庄司 真理子 Mariko SHOJI	141
高田 洋子 Yoko TAKADA	143
高橋 和子 Kazuko TAKAHASHI	144
山本 健 Takeshi YAMAMOTO	146
柳原 由美子 Yumiko YANAGIHARA	147

### 国際学部こども学科

畑中 千晶 Chiaki HATANAKA	148
池谷 美佐子 Misako IKEYA	149
佐藤 佳子 Keiko SATO	150
田口 功 Isao TAGUCHI	150
武内 清 Kiyoshi TAKEUCHI	151
山口 政之 Masayuki YAMAGUCHI	153
山本 陽子 Yoko YAMAMOTO	154

---

## 国際学部国際学科

**有馬 容子** Yoko ARIMA

アメリカ文学／教授

〈現在の研究テーマ〉

プロジェクト研究の計画に基づきマーク・トウェインの遺稿を管理するカリフォルニア大学パークレー校マーク・トウェイン・プロジェクトにて未発表原稿の調査にあたった。その資料の分析をもとに、死後百年経ち昨年からオリジナルの形で出版が開始された、『自伝』について研究を進めた。この新しい『自伝』が現代の読者に伝える内容、印象が現代文学の視点からどのような意味を持つか論文にまとめ発表する。

〈次年度に行う予定の研究や将来展望〉

マーク・トウェインの口述した順番どおりに復元された『自伝』が出版されたことにより、トウェインのユーモアの原点が語りの特徴を中心に再発見されている。これまでの翻訳からはこういった新たな視点が欠けており、トウェインのユーモアが十分に表現されていなかった。従って、未訳のユーモラス作品および既訳のユーモア作品の再訳を試みる。また、日本人からみたトウェイン作品の評価について海外で発表していきたい。

〈その他の学外活動〉

日本マーク・トウェイン協会 評議委員

\*\*\*

**家近 亮子** Ryoko IECHIKA

中国近現代政治史・日中関係論／教授

〈現在の研究テーマ〉

2011年度は昨年度に引き続き岩波書店から出版される単著『蒋介石の外交戦略と日中戦争』の原稿を執筆し、ようやく出版の目途をてることができた。予定よりも大幅に遅れたが、今年度中の出版を目指す。また、同時に中公新書『蒋介石』の出版の準備を行っていく。

今年度は総合地域研究所から助成を受けた「共同研究」（「近代日本におけるアジア人留学生の『日本体験』の再検証——千葉に刻まれた近代史を中心に」）

の集大成として国立歴史民俗博物館でシンポジウムを開催した。今年度はこの内容を研究所の紀要に発表する。

〈次年度に行う予定の研究や将来展望〉

次年度は新たなテーマとして、科学研究費（基盤研究B）が通ったので、「中国の政策決定過程における世論要因の分析」の共同研究を行う。研究会の開催と調査、海外からの研究者を招いてのワークショップの開催に専念したい。

〈公表された著書・論文等〉

- ①(単著)「蒋介石 1927 年秋の訪日——〈蒋介石日記〉與日本新聞報道的比較分析」(中国語)、呂芳上主編『蔣中正日記與民国史研究』上冊、世界大同出版、台北、2011 年 4 月、251-266 ページ。
- ②(単著)「中国における階級概念の変遷——毛沢東から華国鋒へ」、加茂具樹・飯田将史・神保謙編著『中国改革開放への転換——「一九七八年」を越えて』、慶應義塾大学出版会、2011 年 10 月、3-28 ページ。
- ③(単著)「『戦争責任二分論』在中國の源流——蒋介石、毛澤東、周恩来對中日戦争的叙述方式」(中国語)、『亜洲研究』64、香港珠海學院亜洲研究中心、2012 年 2 月、217-250 ページ。

〈学会報告〉

- ①(司会) 2011 年 5 月 21 日：2011 年度アジア政経学会東日本大会（獨協大学）・自由論題「中国現代史の新たな視角」。
- ②(口頭発表) 2011 年 6 月 28 日：国際シンポジウム「蒋介石與民国史研究」（台北・中央研究院）、研究発表：「蒋介石における 1935 年の意義——四川省建設と抗日戦の準備」
- ③(司会) 2011 年 9 月 16 日：アジア政経学会全国大会（同志社大学）自由論題。
- ④(企画と司会) 2011 年 11 月 12 日：国際政治学会（つくば国際フォーラム）分科会「東アジア国際政治史」責任者として企画（戦後東アジア国際関係の再構築）。
- ⑤(コメンテーター) 2011 年 11 月 19 日：辛亥革命 100 周年記念国際シンポジウム「アジア主義・近代ナショナリズムの再検討」（東京大学本郷キャンパス）。
- ⑥(企画と司会) 2011 年 12 月 5 日：辛亥革命百周年記念東京会議（東京大学駒場キャンパス）、分科会(8)「日本から見た辛亥革命」。

- ⑦(企画と司会) 2012年1月21日: 敬愛大学総合地域研究所共同研究「近代日本におけるアジア人留学生の『日本体験』に再検証——千葉に刻まれた近代史を中心に」シンポジウム、国立歴史民俗博物館。

〈その他の公表物〉

「中国外交の変遷——『次植民地』から『大国化』への途」佐倉文化大学、平成23年度『講義録』、(財)佐倉国際交流基金、2011年10月。

〈その他の学外活動〉

- ・(財)大学基準協、分科会調査委員 (2011年4月～2012年3月)。
- ・アジア政経学会、理事。『アジア研究』編集委員、査読担当。
- ・現代中国学会、理事。
- ・国際政治学会分科会「東アジア国際政治史」責任者。
- ・講演: 「中国外交の変遷」、2011年5月14日、佐倉国際文化大学。
- ・講演: 「『国際』とは何か?」、2011年11月4日、千葉県立長生高校。

〈学外からの研究助成〉

現代中国拠点研究、文部科学省、2007年～2012年度、国分良成(慶応義塾大学)、研究分担者。

\*\*\*

**ジェーン・イケシマ** Jayne IKESHIMA

英語／専任講師

〈現在の研究テーマ〉

The phenomenon of “English”

Combining Puppeteering with English Teaching

〈次年度に行う予定の研究や将来展望〉

I am researching how to use puppets and puppet shows to teach English to children. I am examining the ways that English dialog can be combined with Japanese stories for the purpose of entertaining and educating audiences. In addition, I am researching methods for teaching the art of puppetry and puppet manipulation to students. I am studying the construction of puppet theaters and how to transport them easily to puppet-show venues.

\*\*\*

## 覚正 豊和 Toyokazu KAKUSHO

刑事法学(公法学)／教授

### 〈現在の研究テーマ〉

- ①死刑廃止論
- ②少年犯罪、高齢者犯罪など各種犯罪の類型的考察
- ③犯罪被害者論（含む修復的司法）、更生保護
- ④刑法理論研究

### 〈次年度に行う予定の研究や将来展望〉

- ①のテーマにつきその代替刑の導入更生や被害者感情などの観点から死刑廃止の問題をさらに考察していきたい。また、このテーマに資するため確定死刑者の処遇に関する国際比較研究も引き続き行っていきたい（③のテーマは深い関わりをもつ）。
- ②の少年犯罪、高齢者犯罪など各種犯罪の類型的考察、とりわけ少年犯罪については毎月開催されている「少年法研究会」「警察政策学会」における情報交換等を基に少年の保護主義擁護論と厳罰論の検討を踏まえ、刑事処分と保護処分との限界の問題について考察していきたい。
- ③④のテーマについては、体系書の執筆に取り組んでいるが、一日も早く脱稿したい。

### 〈学会報告〉

（司会）2011年8月8日、第16回国家犯罪学会シンポジウム（神戸学院大学、ポートピアキャンパス3F）。

### 〈その他の公表物〉

2011年3月「日本国憲法の生い立ちと憲法解釈変更の問題」『佐倉市国際文化大学講義録』（財団法人佐倉国際交流基金、69-75ページ）。

### 〈その他の学外活動〉

- ・独立行政法人放射線医学総合研究所倫理・コンプライアンス委員（平成21年10月～継続）。
- ・財団法人佐倉国際交流基金佐倉市国際文化大学運営委員（平成21年10月～継続）。
- ・千葉県生涯大学校講師（昭和60年6月～継続）。
- ・明治大学犯罪学研究所研究員（平成16年10月～継続）。
- ・千葉大学非常勤講師（憲法、昭和61年4月～継続）。

\*\*\*

## 櫛田 久代 Hisayo KUSHIDA

アメリカ政治史／教授

### 〈現在の研究テーマ〉

「アメリカ沖合石油・天然ガス田の新規掘削モラトリアムの歴史研究」  
アメリカ連邦政府による新規沖合石油・天然ガス田掘削一時停止措置（モラトリアム）が、1980年代から2010年まで存続してきた理由を、連邦レベル、州レベルの相互作用の中から明らかにしたいと考えている。

### 〈次年度に行う予定の研究や将来展望〉

さしあたり、上記研究成果の一部に関して、2013年6月22・23日に神戸大学において開催される日本比較政治学会研究大会において報告する。学会報告後、論文としてまとめ公表する予定である。

### 〈その他の公表物〉

（書評） Peter Lehner, *In Deepwater: The Anatomy of a Disaster, the Fate of the Gulf, and Ending Our Oil Addiction* (New York: The Experiment, 2010) 『敬愛大学総合地域研究』2号（2012年）、76-78ページ。

### 〈その他の学外活動〉

- ・日本アメリカ史学会、『アメリカ史研究』編集委員会委員
- ・立教大学文学部非常勤講師

### 〈学外からの研究助成〉

科学研究費助成 基盤研究(C)「アメリカ沖合石油・天然ガス田の新規掘削モラトリアムの歴史研究」（研究代表者：櫛田久代）、研究課題番号23530158（平成23～25年度）。

\*\*\*

## 増井 由紀美 Yukimi MASUI

アメリカ研究／准教授

### 〈現在の研究テーマ〉

イェール大学に所蔵された『朝河文書 (Asakawa Papers)』を主な史料とし、朝河貫一の歴史家／図書館司書としての役割をアメリカ近代化の中で捉え

る。

〈次年度に行う予定の研究や将来展望〉

上記研究を一冊の本の形にまとめる準備をする。

〈その他の公表物〉

「3.11以降の郡山、そしていわきを訪ねて」『朝河貫一研究会ニュース』76号、2011年8月。

「ニューヘイブン便り」『朝河貫一研究会ニュース』77号、2012年2月。

〈その他の学外活動〉

- ・イェール大学客員研究員（アメリカ研究）
- ・朝河貫一研究会、理事及び事務局長
- ・津田塾大学非常勤講師

\*\*\*

## 水口 章 Akira MIZUGUCHI

政策学(対外政策論)／教授

〈現在の研究テーマ〉

政策決定過程におけるリスク認識についての理論研究に取り組んでおり、その事例として、日本の対外政策における資源・エネルギー外交、経済外交、安全保障外交について分析をしている。

〈次年度に行う予定の研究や将来展望〉

現在の研究テーマに引き続き取り組む。さらに、日本人の対外認識の変遷についても研究の視野を広げる。

〈公表された著書・論文等〉

「リビアの政治変動と新制度構築」『中東協力センター・ニュース』Vol. 36, No. 4, 47-55ページ、財団法人中東協力センター、2011年10月。

〈その他の公表物〉

- ①「リビア 今後の課題」(2011年10月27日『読売新聞』論点)。
- ②新イーグルフライ(投資助言・代理業 関東財務局長(金商)第1898号取得のエフピーネット有限会社発行のメールマガジン)に毎月1回執筆(毎回2500字程度)。執筆テーマは次の通り。  
「中東情勢とリスクの連鎖」「中東地域の地政学的リスクと中国」「IEAの石油備蓄放出と中東情勢」「中国・中東諸国関係について」「リビア情勢



の新局面と中東の動向」「オバマ政権の外交政策への批判」「市民の連帯意識と中東情勢」「中東の政変と日本の中東政策」「2012年の中東情勢と原油価格」「今後のイラン情勢」「イラン、シリア問題の危機の本質とは」「対イラン経済制裁の行方」。

〈その他の学外活動〉

- ・エフイーシー民間外交推進協会の日本・中東文化経済委員会委員
- ・獨協大学非常勤講師
- ・千葉県立保健医療大学非常勤講師（後期）

\*\*\*

## 村川 庸子 Yoko MURAKAWA

日米比較文化論／教授

〈現在の研究テーマ〉

- ① 20 - 21世紀米国の移民・市民権政策
  1. 日系／アジア系アメリカ人の歴史の表象——例外主義再考
  2. 米国の国外退去政策と官僚政治
- ② 日本の「戦後」に関する比較文化論的考察

〈次年度に行う予定の研究や将来展望〉

- ① 上記に関する論文執筆
- ② 自著の翻訳（邦語⇒英語）

〈公表された著書・論文等〉

- ① (単著)「日系アメリカ人の表象——『リドレス史観』を超えるための試論」『敬愛大学国際研究』第24号、2011年2月、25-46ページ。
- ② (新刊紹介) 和泉真澄著『日系アメリカ人強制収容と緊急拘禁法——人権・治安・自由をめぐる記憶と葛藤』（2009年）、『アメリカ学会会報』172号、2010年4月。

〈その他の公表物〉

- ・コラム「道標：移民史研究の入り口——私にとっての愛媛」（『愛媛新聞』2011年1月16日）。
- ・コラム「道標：いけずの陰に優しさ——記憶の中のおばちゃん」（『愛媛新聞』2011年2月20日）。

〈その他の学外活動〉

- ・敬愛高校 敬天愛人講座講師
- ・国立歴史民俗博物館第六室リニューアル委員 第6室「現代」副室における展示「日本人移民と戦争の時代」（2011年3～5月）の企画、米国からの観覧者への解説、等。
- ・(財)日本高等教育評価機構評価員
- ・日本移民学会運営委員
- ・津田塾大学非常勤講師

〈学内活動〉

- ・敬愛大学／敬愛高等学校 敬天愛人講座講師
- ・総合地域研究所共同研究「『食』と『アグリ』をめぐる新たな教育カリキュラム構築に向けての実践的活動」（研究代表）。

〈学外からの研究助成〉

人間文化研究機構連携研究「移民史の比較研究」（研究代表者：今泉裕美子、2005年～）研究員。

\*\*\*

**中村 圭三** Keizo NAKAMURA

大気環境学／教授

〈現在の研究テーマ〉

- ①千葉県北部地域における酸性雨の地域的特性に関する研究
- ②雨水の利用に関する研究
- ③ネパールのヒ素汚染に関する研究
- ④ネパールの農業気象に関する研究
- ⑤ネパールの環境問題に関する研究
- ⑥山岳の環境問題
- ⑦印旛沼流域鹿島川の自然環境に関する総合的研究

〈次年度に行う予定の研究や将来展望〉

- ①長年の酸性雨に関する研究の成果をまとめる
- ②ネパールのヒ素汚染に関する研究をまとめる
- ③ネパールの農業気象に関する研究をまとめる
- ④ネパールの環境問題に関する研究成果をまとめる

⑤山岳の環境問題

⑥印旛沼流域鹿島川の自然環境に関する総合的研究

〈公表された著書・論文等〉

(共著) 中村圭三・三谷雅肆「関東地方における大気混濁係数の推移について——全日射量からの評価の試み」『天気』(査読付き)、Vol. 58, No. 10 (2011)、855-864 ページ。

〈その他の学外活動〉

- ・佐倉市社会教育委員
- ・千葉大学文学部非常勤講師

〈学外からの研究助成〉

2011～2015年度までの科学研究費補助金 基盤研究(B) 海外学術調査「ネパール・テライ低地におけるヒ素汚染の実態とその対策に関する研究」研究代表者。研究課題番号 23401006。

\*\*\*

**大月 隆成** Takashige OTSUKI

アフリカ研究／専任講師

〈現在の研究テーマ〉

アフリカや途上国の開発など、学生にとってなじみが薄く、関心を持ちにくい分野について、どのようにすれば学生に関心を持たせることができるか、そのための効果的な方法にはどのようなものがあるか、という観点からの研究を行っている。具体的には、シミュレーション・ゲームを利用した教材開発が中心であり、アフリカを舞台にした開発教育用教材のゲーム、「ヴィクトリア湖のほとり」の改良及び自習用教材化を進めている。

〈次年度に行う予定の研究や将来展望〉

アフリカを舞台にしたゲームの第二弾、「ケタイ・マサイ」の開発を進める予定である。従来、牧畜を中心とする伝統的な生活を営んできた東アフリカのマサイ人の生活が、携帯電話という文明の利器を手にしたことで一変しつつある点や、固定電話の普及率が極めて低かったアフリカにおいて、なぜ携帯電話が適合したのかという点について、ゲームを楽しみながら学び、さらにマサイ人新興実業家としてビジネスに取り組む経営シミュレーション・ゲームの要素を兼ね備えたものとなる予定である。

〈学会報告〉

(口頭発表) 2011年5月29日、「ヴィクトリア湖のほとり——開発教育分野における教育用ゲーム開発の試み」、(日本シミュレーション&ゲーミング学会、千葉工業大学)。

\*\*\*

**織井 啓介** Keisuke ORII

国際金融論／准教授

〈現在の研究テーマ〉

金融危機の実証分析：経済政策・為替制度の失敗や他国からの伝染 (contagion) 等によって発生する金融危機のメカニズムを研究するとともに、危機発生の子知・予防を目的とするEWS (Early Warning System) を研究しています。

〈次年度に行う予定の研究や将来展望〉

通貨統合の為替安定性：ユーロ危機を踏まえて、バスケット通貨や単一通貨を導入した際の為替の安定性について、理論・実証両面から研究を進める予定です。

〈公表された著書・論文等〉

(単著) 「Early Warning System による危機の予測：東アジアおよび中東欧への応用」『敬愛大学総合地域研究』第2号、29-51 ページ。

〈その他の学外活動〉

- ・独立行政法人経済産業研究所 (RIETI) バスケット通貨研究会研究委員。
- ・千葉大学法経学部非常勤講師 (金融論)。
- ・千葉経済大学経済学部非常勤講師 (金融論)。

\*\*\*

**三幣 利夫** Toshio SANPEI

国際経済／教授

〈現在の研究テーマ〉

インターシイプの拡大と就職先の開拓。

〈次年度に行う予定の研究や将来展望〉

インターシィブ拡大と就職先拡大の更なる推進。

\*\*\*

## 庄司 真理子 Mariko SHOJI

国際機構論／教授

### 〈現在の研究テーマ〉

国連グローバルコンパクトのビジネスと平和専門家委員会の委員として、今後も、ビジネスと平和の関係について研究していく。本年の研究目標は、国連グローバルコンパクトのマルチステークホルダー・プロセス（Multi stakeholder process: MSP）に関する研究である。MSPがビジネスと平和のガイダンス文書を作成するなどの数々の規範形成活動を行っているため、MSPの規範形成プロセスをいかにするべきかを研究している。当該ガイダンス文書は、ソフト・ローではあるが、トランスナショナルな規範である。国際法と比較して規範形成プロセスが未熟で形成段階にあり、大変に混沌としている。本研究では、この規範形成プロセスを整理し、秩序だったものとすることを検討する。また、ビジネスと平和の文脈では、このMSPが、そのまま紛争解決プロセスとなる場合がある。そのあたりの紛争の平和的解決における国連グローバルコンパクトのMSPの役割についても研究する予定である。

### 〈公表された著書・論文等〉

- ①（共著）庄司・宮脇共編『新グローバル公共政策』晃洋書房、2011年10月、3-11ページ、23-41ページ、135-143ページ。
- ②（単著）「国連の役割を問う」、押村・中山編『世界政治を読み解く』、ミネルヴァ書房、2011年11月、141-162ページ。
- ③（単著）「The United Nations Global Compact and Peace: Guidance on Responsible Business in Conflict-affected and High-risk areas: A resource for companies and investors」『敬愛大学国際研究』第25号、2012年3月、135-159ページ。
- ④（単著）「Research note: Business and Peace Project of Columbia University」研究代表者 佐藤安信『国連の平和活動とビジネス——紛争、人の移動とガバナンスの相互作用を軸として』平成21年度～23年度科学研究費補助金、新学術領域研究・研究課題提案型、研究成果報告書、課題番号

21200047、2012年3月、70-80ページ。

〈学会報告〉

(Project manager, organizer & moderator) Business and Peace Project of  
Columbia University

January 22: First member meeting, Presentation Practice Room in Lehman  
Library

January 28-29: Aspen meeting (Mariko)

February 26: Second member meeting

March 4: UNGC official presentation/learning session (2:30-4:00pm at  
Lehman)

March 11: Viewing of a Global Web meeting and discussion (Listening)

March 22: The office of the UNGC visit

April 1: Learning session with officials from the Aspen Institute and IEP

April 5: Webinar discussion, led by the office of the UNGC

April 15: Overview of UNGC Business and Peace by Mariko

Student Presentations- Interim Report (Sudan, Colombia, Nepal and Pakistan)

April 18: UNDP official Mr. Henry Jackelen presentation

April 23: Final meeting for our reports

May 17: Meeting of the Expert Group on Responsible Business and  
Investment in

Conflict-Affected Countries in Copenhagen, Denmark (Mariko)

(panelist), "Career in Asia," Mathson Hall room109, Drexell University, May  
25,2011.

(Moderator and Organizer, Speaker) Ambassador Anwarul K. Chowdhury,,  
Title: "Culture of Peace and Spirituality," June 29th, 2011 from 4:00 pm,  
the Robbins Nest cafe at the Plaza level of the Waterside, NY.

(Moderator and Organizer) Title: Business and Peace Symposium: Can multi-  
stakeholder process (the local network of the UNGC) contribute to recon-  
struction and peacebuilding?" 6:00-8:00pm, September 8th,2011, at 409  
IAB (International Affairs Building), School of International Public Affairs,  
Columbia University.

"Responsibility to Protect, Human Security and East Asia—A diagrammatic  
approach to the UN peace and security notions?" The 11th East Asian

Seminar on the United Nations System, Main Theme: “Globalization and Regional Governance in East Asia,” Co-organized by Japan Association for United Nations Studies (JAUNS) and Osaka School of International Public Policy (OSIPP), Osaka University, Dates: December 16th–17th 2011, Venue: Osaka University Hall.

〈その他の公表物〉

(書評) 松浦博司著『国連安全保障理事会』、『国際法外交雑誌』 第110巻、(1号)、2011年、116–120ページ。

〈その他の学外活動〉

- ・国連グローバルコンパクト、ビジネスと平和専門家委員会委員
- ・コロンビア大学大学院国際公共政策研究科客員研究員
- ・コロンビア大学大学院国際公共政策研究科 UN studies program, Business and Peace Project, Project manager
- ・日本国際連合学会理事
- ・国際法学会評議員
- ・中央大学社会科学研究所客員研究員
- ・立教大学法学部非常勤講師
- ・早稲田大学大学院アジア太平洋研究科非常勤講師

〈学内活動〉

- ・(講演)「グローバル都市ニューヨークから学んだこと」国際交流講演会、2011年11月13日、敬愛大学 3301教室。
- ・「多人種多宗教の街ニューヨーク」『敬愛大学学園報』、第101号(2011年11月30日)、9ページ。

〈学外からの研究助成〉

平成23年度 科学研究費補助金 基盤研究(B)「国際規範の競合と複合化についての比較研究」研究代表者。研究課題番号20330034。

\*\*\*

**高田 洋子** Yoko TAKADA

国際関係史・東南アジア研究・ベトナム経済史／教授

〈現在の研究テーマ〉

ベトナム領メコンデルタのフランス植民地統治下における社会と経済、と

りわけ土地所有制度の史的研究。

〈次年度に行う予定の研究や将来展望〉

- ①上記研究の集成による著書完成に向けた準備。
- ②紅河デルタ農村から調達された仏領期契約労働者に関する研究。ハノイ市ベトナム国家公文書センター所蔵史料の収集とデジタル化作業、データベース作成。
- ③ベトナム共和国期土地改革に関する議定資料の収集と分析。

〈公表された著書・論文等〉

(単著) 2012年3月、「仏領期メコンデルタにおける大土地所有制の成立(2)」『敬愛大学総合地域研究』(敬愛大学総合地域研究所紀要) 第2号、52-73ページ。

〈その他の学外活動〉

- ・東南アジア学会、2011年度東南アジア学会賞の審査委員。
- ・京都大学東南アジア研究所学外研究協力者。
- ・2011年10月7日、14日、21日、「ベトナム民族解放闘争のなかの人びと I・II・III」千葉市市民文化大学国際文化学科、講演、千葉市市民文化ホール。

〈学外からの研究助成〉

- ①2011年度東京大学東洋文化研究所 東洋学研究情報センター共同研究「国際的な米価高騰とインドシナ半島の稲作の変容に関する農業経済史」(東京外国語大学大学院総合国際学研究科 宮田敏之代表)の研究分担者。
- ②上記研究機関からの派遣：ベトナム社会主義共和国 2012年3月3日～3月12日、ホーチミン市、メコンデルタ農村における調査、ハノイ市、ベトナム国家人文社会科学・史学院訪問。

\*\*\*

**高橋 和子** Kazuko TAKAHASHI

自然言語処理・機械学習・社会調査方法論／教授

〈現在の研究テーマ〉

- ①サポートベクターマシン (SVM) における分類精度向上を目的に提案した「クラス所属確率を用いたアンサンブル学習アルゴリズム」の有効性を示す(公表された著書・論文①、学会報告①)。



- ②「職業・産業コーディング自動化システム」を東京大学社会科学研究所 Web サイトから公開するため、現在は、国内標準である SSM 職業・産業コーディング自動化システムを公開版に移植中である（公表された著書・論文②、学会報告②③）。

〈次年度に行う予定の研究や将来展望〉

上記②において次の3つを行う。

- ・国際標準である ISCO/ISIC コーディング自動化システムの Web 公開版への移植。
- ・コードの作業量軽減のために、機械学習手を用いたコードについて、システムが予測した分類結果に対する確信度（3段階）を付与。
- ・SSM 職業・産業コーディング自動化システムの Web 公開実現。

〈公表された著書・論文等〉

- ①（単著）2011年5月、「多クラス SVM におけるクラス所属確率を用いたアンサンブル学習の提案」『情報処理学会第201回自然言語処理・第86回音声言語情報処理合同研究発表会論文集』〈[https://ipsj.ixsq.nii.ac.jp/ej/index.php?active\\_action=repository\\_view\\_main\\_item\\_detail&item\\_id=74053&item\\_no=1&page\\_id=13&block\\_id=8](https://ipsj.ixsq.nii.ac.jp/ej/index.php?active_action=repository_view_main_item_detail&item_id=74053&item_no=1&page_id=13&block_id=8)（accessed 2013-2-1）〉。
- ②（単著）2012年3月、高橋・魏・田辺・吉田、「社会調査における職業・産業コーディング自動化システムの Web 公開」『言語処理学会第18回年次大会論文集』、219-222 ページ。

〈学会報告〉

- ①（口頭発表）2011年5月16日、「多クラス SVM におけるクラス所属確率を用いたアンサンブル学習の提案」、情報処理学会第201回自然言語処理・第86回音声言語情報処理合同研究発表会（於：東京大学本郷キャンパス）。
- ②（口頭発表）2011年9月6日、高橋他「職業・産業自動コーディングシステムの Web 公開に向けて——機械学習による手法」、第52回数理学会大会（於：信州大学）。
- ③（口頭発表）2012年3月14日、高橋他「社会調査における職業・産業コーディング自動化システムの Web 公開」、?言語処理学会第18回年次大会（於：広島市立大学）。

〈その他の公表物〉

2012年3月、村川他『『食』と『アグリ（=農業）』をめぐる新たな教育カリキュラム構築に向けての実践的活動』総合地域研究所共同研究報告書

2011（代表：村川庸子）副代表

〈その他の学外活動〉

- ・文部科学省「人文学及び社会科学における共同研究拠点の整備の推進事業」共同研究拠点「JGSS（日本版総合的社会調査）研究センター」（代表：岩井紀子〔大阪商大〕）嘱託研究員（2008年10月～）。
- ・数理社会学会研究活動委員（2011年4月1日～）。
- ・成蹊大学アジア太平洋研究センター「暮らしについての西東京市民アンケート」（代表：小林盾〔成蹊大〕）における職業データ自動コーディング処理（2011年7月）。
- ・少子社会における子育て支援政策研究会「結婚と子育て支援にかんする東京都民調査」（代表：金井雅之〔専修大学〕）における職業データ自動コーディング処理（2012年1月）。
- ・平成22年度～平成24年度科学研究費補助金 基盤研究(C)「対人援助専門職職務内容コーディングの自動化に関する実証的研究」（研究代表者：後藤隆〔日本社会事業大〕）連携研究者。
- ・社団法人「社会調査協会」連絡責任者（2011年4月～）。

〈学外からの研究助成〉

平成22～24年度 科学研究費補助金（2011年度：65万円）。基盤研究(C)「社会調査の基盤を提供する自由回答の自動コーディングシステムの開発と公開」研究代表者。研究課題番号22530516。

\*\*\*

## 山本 健 Takeshi YAMAMOTO

ドイツ中・近世都市史／教授

〈現在の研究テーマ〉

ドイツ中・近世のアウトスブルク市の様々な職業的な立場にいる人物たちが残した『日記』の分析に努めている。当時は激しく宗教的に対立した時期であり、各集団の人々が何に関心を持ち、どのように行動したのかを調査し、その相互の人間関係を明らかにするための史料調査が現在の研究テーマである。そして、今年度でアウトスブルク市の医師フィップ・ヘーヒシュテッターが著した『日記』（1579－1635年）の邦訳が完了した。

〈次年度に行う予定の研究や将来展望〉

次年度からは、私の研究の基軸たる商人、ルーカス・レムの『日記』では簡単にしか触れられていない当時の交通事情について調査し、その文献や史料の翻訳を通して、移動の手段や旅行の実態を明らかにする予定でいる。史料は、クラウス・ミリツァーが編纂したStadtkoelnische Reiserechnungen des Mittelalters (Duseldorf, 2007) である。これは中世高地(南)ドイツ語や中世低地(北)ドイツ語などで記されたものであり、苦戦を強いられそうであるが、ルーカス・レムが発病して逗留した都市だけに、辛抱強く翻訳していきたい。

〈公表された著書・論文等〉

(単著)「近世アウクスブルクの医師の日記の邦訳(2)」『敬愛大学国際研究』第25号、2012年、161-196ページ。

\*\*\*

**柳原 由美子** Yumiko YANAGIHARA

英語音声学、教育方法学／准教授

〈現在の研究テーマ〉

国際協力における技術移転をコミュニケーションと捉え、コミュニケーションの4要素を枠組みに、技術移転の内容(メッセージ)、技術移転の方法(チャンネル)、カウンターパート(受け手)の能力の問題を取り上げてきた。また、カウンターパートの語学力の問題にも関わるとして、サモアとフィリピンにおいて、教授言語についての研究を行ってきた。特に、教授言語の相違(母国語・英語)による理解度の問題を、教授言語の流暢さの観点からのみ見ていくのではなく、サビア・ウォーフの言語認知の観点(BerryのB型の問題)から取り上げた。また、1999年から行ってきた7つの実証的研究論文を、ひとつにまとめることを試みている。また、英語教授法に関する実証的研究も、再度始めている。

〈次年度に行う予定の研究や将来展望〉

次年度は、英語教授法に関する実証的研究に立ち戻って、「シャドウイングの効果」や、「CALLを使用した場合の効果」などに関して、今まで採取したデータを使用したり、新たにデータを収集し、研究しようと考えている。

〈その他の学外活動〉

①日本国際地域開発学会評議員(2001年4月～現在に至る)。

- ②放送大学 平成22年度2学期面接授業担当講師（科目名：英語の音声）。
- ③放送大学 平成22年度2学期面接授業担当講師（科目名：国際協力論——技術移転の方法と文化協力）。
- ④実業英語技能検定 面接委員（1994年～現在に至る）。

---

## 国際学部こども学科

### 畑中 千晶 Chiaki HATANAKA

西鶴浮世草子研究・翻訳研究／准教授

#### 〈現在の研究テーマ〉

- ①浮世草子研究（西鶴およびその他の浮世草子に関して）
- ②海外における日本文学研究に関する調査・考察

#### 〈次年度に行う予定の研究や将来展望〉

- ①浮世草子研究（事典項目執筆に備えた基礎研究）
- ②日本文学の翻訳に関する考察
- ③「児童文学論」講義に備えた基礎研究

#### 〈公表された著書・論文等〉

- ①(単著) 2011年6月、「フランス語の井原西鶴—『浮世の月』における試み—」、日本比較文学会編『越境する言の葉—世界と出会う日本文学—日本比較文学会創立60周年記念論文集』、彩流社、211-221ページ。
- ②(単著) 2012年2月、「西鶴の隠れ里—描かれざる空白を読む—」『敬愛大学国際研究』第25号、121-134ページ。

#### 〈学会報告〉

(口頭発表) 2011年8月27日、「西鶴が『男色大鑑』に登場するのはなぜか」、パネル“Saikaku’s Katari or narration”における個人報告。司会は中嶋隆氏(早稲田大学教授)、パネル全体の企画・統括はダニエル・ストリューブ氏(フランス、パリ第七大学准教授)、他の発表者はジェラルド・シアリ氏(フランス、モンペリエ大学教授)、ポール・シャロウ氏(アメリカ、ラトガース大学教授。但し、発表は事情により欠席)。13th International Conference of European Association for Japanese Studies, Tallinn, Estonia.

#### 〈その他の公表物〉

2012年3月、読書案内「科学する女子の背中を押すものとは（『マリー・キュリーの挑戦 科学・ジェンダー・戦争』、川島慶子著、トランスビュー、2010年）』『君にすすめる一冊の本』第7集、74-75ページ。

〈その他の学外活動〉

- ・ 2000年12月～至現在、日本比較文学会東京支部役員。
- ・ 2009年6月～至現在、日本比較文学会事務局幹事（名簿担当）。
- ・ 1997年4月～至現在、駒澤大学非常勤講師。
- ・ 2009年4月～至現在、青山学院大学非常勤講師。
- ・ 2011年6月～至現在、日本比較文学会東京支部幹事。
- ・ 平成23年度市原市立五井公民館主催事業「江戸文化に親しむ」講師。

\*\*\*

## 池谷 美佐子 Misako IKEYA

小学校教育／准教授

〈現在の研究テーマ〉

- ① 小学校教育の教科に関しては、生活科を担当し、その概要と指導法について、教科の特性・対象児童の発達特性を具体的に理解することができる授業方法を工夫する。
- ② 「子どもと家庭の関係論」においては、小学校での様々な事例をもとに、現代の社会の変化と家庭の在り方の変容を分析しながら、その中に生きる子どもの変容や課題を多様な側面からとらえ整理する。
- ③ 1・3・4年のゼミの指導の在り方については、将来、小学校の教員をめざしている学生たちの希望の実現に向けて、基礎的な学習上の知識・小学校教育に関する一般的な知識・教育哲学の変遷・小学校の授業の在り方や模擬授業等について、4年間を通して積み重ねができるようゼミ内容の意図的・計画的な構築を図っている。

〈次年度に行う予定の研究や将来展望〉

- ① 生活科や「子どもと家庭の関係論」の内容を取り扱う上での課題は、都市部の抱える実態と学生の多くが経験してきた体験の大きな隔たりである。そのことを踏まえて、より具体的に学生に授業内容をとらえさせ理解を深めさせていくための指導方法の在り方について研究を続けていく。
- ② 授業の中で学生自身が体験を通して学ぶことのできる指導の在り方をさ

らに明確にしていく。

〈公表された著書・論文等〉

- ①(単著)「敬愛大学の小学校教員養成の現状と課題」(『敬愛大学国際研究』第25号、2012年)、1-32ページ。
- ②(単著)「保育者として育ちつづけるために——シンポジウム総括報告」(『日本幼児教育学研究』第17号、2010年4月)、38-40ページ。

〈学会報告〉

(司会) 2010年9月4日「シンポジウム：質の高い保育者の養成について考える」。

\*\*\*

**佐藤 佳子** Keiko SATO

小学校英語・イギリス文学／専任講師

〈現在の研究テーマ〉

- ①小学校外国語活動のあり方について
- ②小学校外国語活動の文字指導について

〈次年度に行う予定の研究や将来展望〉

- ①イギリスにおける外国語教育に関する研究
- ②イギリスの国語教科書・教材研究

〈公表された著書・論文等〉

“Nature and Childhood in John Betjeman’s *Summoned by Bells*”『日本女子大学英米文学研究』第47号、2012年3月、191-198ページ(査読付き)。

\*\*\*

**田口 功** Isao TAGUCHI

ソフトコンピューティング・理科／教授

〈現在の研究テーマ〉

ニューラルネットワークにおいて最も実用的に用いられているモデルは、階層型ニューラルネットワークである。複素ニューラルネットワークにおいてもバックプロパゲーション学習アルゴリズムは、有力である。画像処理や天気予報の分野などに広く応用され、複素パターン(複素数から構成され

るパターン)を扱う方法として、現在でも広く知られている。

複素BPは、実BPを複素数に拡張したもので、ニューロン間の結合の重みおよび各ニューロンが持つ閾値がすべて複素数であり、さらに、入力パターンや出力パターンも複素数となるニューラルネットワークである。階層型ニューラルネットワークの汎化能力に対して、複素ニューラルネットワークの汎化能力についての基礎研究はあまり行われていない。本研究では、この問題を実験的に明らかにし、関数学習に取り入れ、その効果を研究しようとするものである。

〈公表された著書・論文等〉

(単著) (日本の電気学会に掲載された日本語論文8本をアメリカのWiley社が英訳して出版): “An efficient learning method for layered neural networks based on selection of training data and input characteristics of an output layer unit” *Electronics and Communications in Japan*, Vol. 95, A Wiley Company, 21 March, 2012, pp. 57–67.

\*\*\*

**武内 清** Kiyoshi TAKEUCHI

教育社会学・子ども社会学／特任教授

〈現在の研究テーマ〉

子ども社会学 (子ども文化)、学校社会学 (学校と教師)、青年文化研究 (遊び、メディア)、高校 (格差)、高等教育 (学生文化、学生支援)、教科書 (使い方)などを、研究テーマにし、主に実証的データを中心に研究を進めている。

〈次年度に行う予定の研究や将来展望〉

上記に加え、初等教育に関しても理論研究、実証的データ (観察を含む)により研究を進める。さらに、学生文化、学生支援、青年文化、デジタル教科書に関しても、共同研究を計画している (平成24年度～26年度・科研費・基盤C一般・研究代表者、テーマ「現代の学生文化と学生支援に関する実証的研究——学生の「生徒化」に注目して」)。

〈公表された著書・論文等〉

①「大学生の現在」(浅野智彦氏との対談)『季刊家計経済研究』No. 91, 2011年7月、2–13ページ、家計経済研究所。

- ② 「社会的格差と学力」、高橋恵子編『発達科学入門2 胎児～児童期』  
2012年2月、286-287ページ、東京大学出版会。
- ③ 「現代の学生文化と学生支援のあり方」『平成23年度全国学生指導担当  
教職員研修会報告書』、2012年3月、7-19ページ、独立行政法人日本学  
生支援機構。

#### 〈学会報告〉

- ① 韓国日本教育学会春季学術大会報告「日本の大学のキャンパスライフと  
大学生の特質」(5月21日、ソウル教育大学校)、発表資料集、3-13ページ。
- ② 日本子ども社会学会・東京地区研究会・コーディネート(12月10日、上  
智大学)、テーマ:「子どもと教育社会学研究」、「子どもと地域社会」。

#### 〈その他の公表物〉

「座談会 教科書のデジタル化をどう考えるか」(寺崎昌男、赤堀兄司、谷川  
彰英、加藤幸次、武内清他)『教科書フォーラム』No. 9、2011年10月、1-  
34ページ。

#### 〈その他の学外活動〉

- ・放送大学客員教授(「子ども・若者の文化と教育」主任講師、平成23年4月  
～)。
- ・放送大学東京文京学習センター客員教授(平成21年4月～)。
- ・放送大学非常勤講師(東京文京学習センター面接授業講師、平成21年～)。
- ・上智大学大学院総合人間科学研究科非常勤講師(「教育社会学特殊講義 I  
II 担当」、平成22～23年)。
- ・東京成徳大学子ども学部非常勤講師(「青少年文化演習」I II 担当)(平成  
18年～)。
- ・日本子ども社会学会会長(平成23年7月～)。
- ・日本教育社会学会理事(平成23年9月～)。
- ・中央教育研究所理事(平成20年4月～)。
- ・東書教育賞審査委員(平成23年4月～)。
- ・講演「学生文化と学生支援のあり方」(11月24日)、全国学生指導担当教  
職員研究会、東京オリンピックセンター。
- ・講演「現代の子ども・青年の特質と教育」(12月3日)北区浮間中学校  
PTA。
- ・講演「大学生の生活・文化と学生支援」(平成24年3月1日)大阪人間科  
学大学FD研修会



\*\*\*

山口 政之 Masayuki YAMAGUCHI

国語科指導法／准教授

〈現在の研究テーマ〉

博士論文の中心課題である「音読時に観察される読み違いの諸相」を明らかにしていく。心理言語学におけるグッドマンのミスキュー研究や、子供の音読を教師はどのように聴くべきなのかを考察したキャンベルの研究を手掛かりに、子供の音読に見られる読み違いの実際と、それに関わる教師の役割について詳細な分析と考察を行う。

〈次年度に行う予定の研究や将来展望〉

音読をする子供の実態調査を公立小学校に依頼し、新たにデータを収集する。中心課題は〈再読〉行為の実際を精査することである。そして、研究内容を学会で発表し、論文を投稿していく。

〈公表された著書・論文等〉

- ①(単著) 2011年5月、「読み違いにおける〈非漢字部分の代用〉の諸相」『臨床教科教育学会誌』臨床教科教育学会、第11巻第1号、69-76ページ。査読付き。
- ②(単著) 2011年10月、「読みの過程で起きる〈読み違い〉の諸相」『学校教育学研究論集』東京学芸大学大学院連合学校教育学研究科、第24号、1-11ページ。査読付き。
- ③(単著) 2012年3月、「音読時の〈読みかえ〉における〈自己訂正〉の諸相」『敬愛大学国際研究』敬愛大学国際学部、第25号、81-99ページ。

〈学会報告〉

- ①(口頭発表) 2011年5月、「読み違いにおける〈翻読〉の諸相」、全国大学国語教育学会(京都教育大学)。
- ②(口頭発表) 2011年6月、「読み違いにおける〈代用〉の諸相」、上越教育大学国語教育学会(上越教育大学)。
- ③(口頭発表) 2012年1月、「読み違いにおける〈漢字部分の代用〉の諸相」、臨床教科教育学会(信州大学)。

\*\*\*

## 山本 陽子 Yoko YAMAMOTO

音楽科教育／准教授

### 〈現在の研究テーマ〉

小学校教員に求められる力について、学生の実態や社会の要請などから、継続的に分析・研究を進めている。本年は「こども学科」に昇格した節目として、「地域こども教育専攻」の歩みと学生の実態、「こども学科」の今後のあり方等をまとめ、国際研究に掲載した。

専門である音楽科教育においては、教員として欠かせない音楽的な素養や基礎的な知識理解、技能、感性などについて研究と継続。学校教育でこれまであまり取り上げられなかった「音程感」を育てる意義や授業での実践を音楽学習学会で発表し、論文としてまとめた。

音楽科教育の指導はどうあるべきか学生との学びを通してさらに考え、提案を行っていきたい。また、学校現場で生かせる音楽的な力や日常の音楽をより深く楽しむことのできる力を伸ばすための指導について研究を続けたい。合わせて人間にとって音楽はどのような意味をもつのかという根源的な研究を深めていきたい。

### 〈公表された著書・論文等〉

- ①(単著) 2012年1月、「教職課程における音楽の基礎力——音程感に関する一考察」『音楽学習研究』音楽学習学会、第7巻、95-104ページ。
- ②(単著) 2012年2月、「小学校教員に求められる力についての一考察——『地域こども教育専攻』学生の実態と『こども学科』のこれから」『敬愛大学国際研究』第25号、55-80ページ。

### 〈学会報告〉

(口頭発表) 2011年8月、「教職課程における音楽の基礎力——音程に関する一考察」音楽学習学会(関西学院大学)。

### 〈その他の学外活動〉

- ・東京学芸大学教育学部非常勤講師「初等音楽科教育法」担当。
- ・音楽学習学会 世話人。